

虚子記念文学館報

2022年5月
第41号

稲畑汀子回顧展

神を愛し、俳句を愛し、心豊かに九十年

令和四年四月一日〜令和五年三月十二日

今年二月二十七日、九十一歳の天寿を全うした稲畑汀子当館館長を偲び、自筆の句軸や短冊の他に、とりわけ笑顔の素敵な写真写真を陳列して、その足跡を辿ります。

汀子は昭和六年、高浜虚子の長男・年尾の次女として生まれ、小学生の頃から俳句に親しみ、二十代の頃は虚子や年尾の吟行に同伴して句会に参加し、結婚後も子育てと並行して、「ホトトギス」や「玉藻」に投稿しました。しかし昭和五十二年七月、年尾が突然脳血栓で倒れ、若千四十六歳にして「ホトトギス」主宰代行という重責を背負い、以後三年間は父と夫の介護と死別という怒涛の日々を送りました。その様などん底の時でも、喪失感から折れそうになる心を癒し、生き抜く勇氣を与えてくれたのが、「俳句を作る事」だったのです。

以後汀子は、季題を大切にする有季定型のホトトギス俳句の普及に邁進し、学生をはじめとする多くの句会を指導、すばらしい句に出会うことを至福の喜びとして、朝日新聞俳壇選者を四十年以上続けました。



昭和40年1月31日 太閤園で開催された「諷詠」200号記念大会に参加した年尾、きみ子、汀子（34歳）

昭和40年頃の稲畑家 右より頼子（33年生まれ）、廣太郎（32年生まれ）、深二郎（37年生まれ） 教会を通じて知り合った順三と汀子は、汀子の誕生日が一日だけ早い、同級生夫妻だった。汀子が「ホトトギス」主宰を継承出来たのも、順三の応援あってのことである。



昭和27年5月23日 高野山俳句大会に参加し、金剛峯寺別殿の廊下で虚子と談笑する汀子（21歳）。



昭和62年8月15日 虚子・年尾・汀子の句を染め抜いた、田中竜児氏デザインの揃いの浴衣でホトトギス連を組み、阿波踊りに参加。汀子は昭和54年以降、計7回も参加しており、中でも62年のホトトギス連は、80人を超す大所帯だった。



昭和59年 芦屋の自宅書斎での汀子（53歳）。部屋の模様替えが大好きだった汀子は、書斎の壁全面を天井までの本棚に作り替え、背には図書館さながらの辞書類が並ぶ。選句をすることは日々学ぶことである、とこの本棚が語っている。（撮影 藤森武氏）



昭和59年「送るわよ。お乗りなさい。」そんな声が聞こえてきそうな1枚。幼稚園に通う子供の送迎に車が必要となり、運転免許を取得。車好きの夫に鍛えられ、最初に中古の外車で練習し、ボンネットを開けての修理やタイヤ交換まで気丈にこなせるまでに上達したという。運転が気分転換と語った汀子は、松山や信州へも必ず車で移動した。（撮影 藤森武氏）



令和元年、東京の自宅マンションにて著書『俳句を愛するならば』の取材を受ける汀子（88歳）。（撮影 藤田浩司氏）



平成4年4月、千代田区丸之内ビルのホトトギス社にて、大好きな紺色と白のコーディネートで撮影（61歳）。



昭和63年7月8日 68人もの敦煌大吟行となった2度目のシルクロードの旅で、鳴沙山にてラクダに乗り御満悦な汀子。莫高窟に見る歴史の重みと自然の厳しさを再確認した旅となった。「夏帽子飛ばし砂塵を捲き上げる」



稲畑汀子 回顧展

高浜汀子は昭和六年一月八日、虚子の長男・年尾と喜美（俳号「きみ子」）の次女として、横浜本牧に生まれました。女児誕生の知らせを受けた祖父虚子は、手紙で「行子、典子、克子、汀子、順子」を提案し、年尾がその中から「汀子」を選んでいきます。

そして汀子四歳の時、年尾の転勤で一家は兵庫県芦屋徳塚町に転居。年尾の妹・星野立子の義理の母に縁のある、宝塚の小林聖心女子学院小学部に姉の中子と入学し、この頃より俳句に親しみました。昭和十八年には芦屋月若町の新居に移るも、二十年八月六日の空襲で自宅が全焼し、汀子と妹・朋子、弟・初也の三人は、一時和田山の俳人・古屋敷香菴居に疎開。戦後、汀子のみ小林聖心女子学院寄宿舎に入り、十五歳でカトリックに入信します。

汀子は寄宿舎から虚子へ宛て、近況と共に俳句を書き付けていました。昭和二十二年七月の汀子宛虚子葉書には、「あなたの句、三句とも、もう一息といふところ。精出して勉強なさい」と、虚子からのエールが記されています。そして翌月の「ホトトギス」（二十二年八月号）には、「武者人形飾れる床の大ききよ（汀子句集）では「飾りし」と訂正」が初入選。汀子のホトトギスデビューは、なんと十六歳でした。

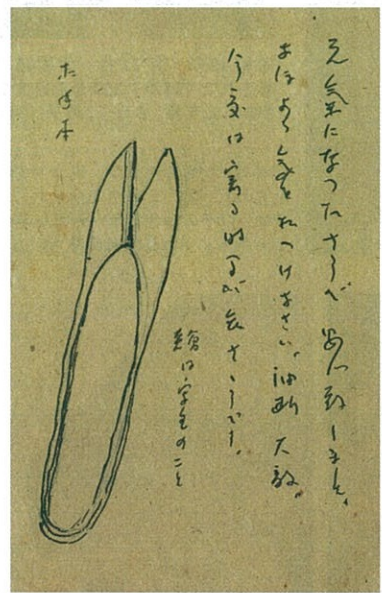
女学校最後の昭和二十四年三月、卒業劇「サウロ（ヘブライ語で聖パウロ）」で、汀子は青年コルネリオを演じています。この戯曲は、当時まだ全く無名だった遠藤周作の書き下ろしで、周作の母親が小林聖心で音楽教師をしていたことから実現したのでした。

しかしこの頃の汀子は体調がすぐれず、内科医だった俳人の田上鯨波に肺湿潤と診察され、寄宿舎内の病室で約一年間の療養生活を余儀なくされました。幸い薬が効いて間もなく治癒するものの、心配性の虚子か

らは、左のような葉書（昭和二十四年九月三十日付）が送られています。

汀子宛虚子葉書

元氣になつたさうで安心致しました。なほよく氣をおつけなさい。油断大敵。今度は寄る時間が無さうです。絵は写生のこと。お手本



翌二十五年四月からは大学が出来て英語専攻科に進みますが、一年遅れたためクラスメートと同じ授業が受けられず、結局学校をやめ、本格的に俳句を学ぶこととなりました。

汀子の代表句として最も人口に膾炙した「今日何も彼もなにもかも春らしく」は、昭和二十六年春、虚子選朝日俳壇入選句です。俳人汀子は、この句からスタートしました。

昭和二十七年からは、虚子や年尾に同行して北海道や九州を吟行し、山中湖の虚子山荘での若手稽古会に加わっています。

二十代の汀子の句は、

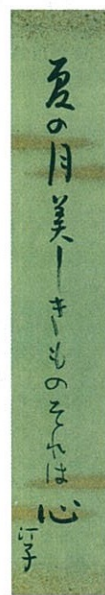


昭和二十七年七月二十五日～八月二日 山中湖山荘前にて撮影。前列右より酒井小薫、汀子（21歳）、中村波奈子。後列右から新田公子、京極杞陽、虚子、田中憲二郎、翁長恭子。

独特なりズムに特徴があり、柳絮の句等には、後の「摘まずおく松虫草は野の花よ」に見られるような、自然への敬愛が感じられます。

「夏の月美しきものは心」

昭和二十七年の詠



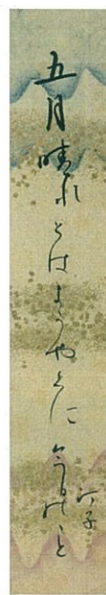
「とらへたる柳絮を風にもどしけり」

昭和二十八年の詠



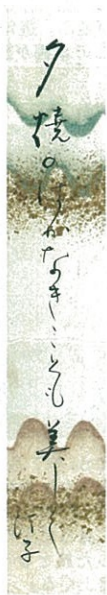
「五月晴れとはようやくに今日のこと」

昭和二十九年の詠



「夕焼のはかなきことも美しく」

昭和二十九年の詠



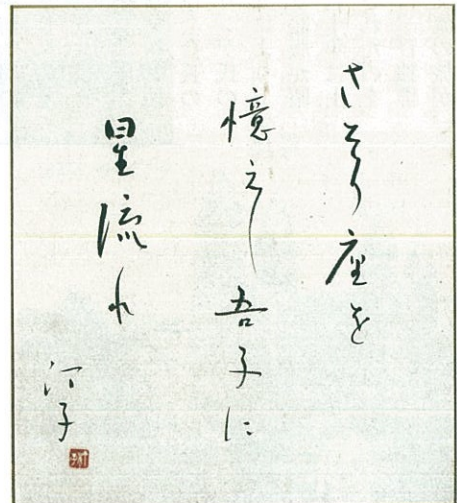
汀子は若い頃より、ずばりと物事を捉え、あるがままを受け入れる大らかさと、優しく思いやりに溢れた、繊細な心配りの両面を持ち合わせていました。俳句もまた然りです。

《二十五歳で結婚し、三人の子の母に》



「ホトトギス」の挿絵を担当していた淡路島の画家・直原玉青によるお目出度い「十二支図」に、汀子が揮

「さそり座を憶えし吾子に星流れ」
昭和四十七年の詠で、深二郎十歳。



昭和四十七年の詠で、深二郎十歳。

《俳句を「作る」から「指導する」立場へ》

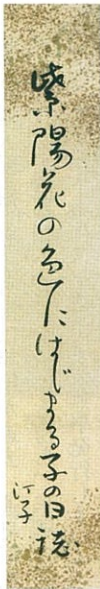
昭和四十九年は、汀子にとって大きな転機となりました。汀子はこの頃より、多忙な父年尾に代わり、地方のホトトギス大会等の指導に向かっています。



汀子は結婚後も虚子に俳句をみてもらっていましたが、子育ての忙しさから吟行にも行けず、俳句が出来ずに悩んでいました。そんな時「身近な季題で作りなさい」という虚子の助言を得て、昭和三十年後半から四十年代にかけては、子供を中心とする微笑ましい句が散見します。

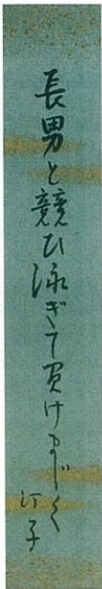
「紫陽花の色にはじまる子の日誌」

昭和三十九年の詠。廣太郎七歳。



「長男と競ひ泳ぎて負けまじく」

昭和四十二年の詠。廣太郎十歳、汀子三十六歳。因みに汀子は「あぶり横泳ぎ」で、顔のみ上を向き、飛沫を立てない優雅な泳法だとか。



昭和49年10月、高知ホトトギス大会を指導する汀子(43歳)。

また、廣太郎や深二郎が通っていた甲南中学からの要請で、特別教育活動(特活)として、毎週学生達に俳句を教えることになりました。四年後にはこの特活での経験を活かし、俳句入門書『自然と語りあうやさしい俳句』を出版。装丁や題簽は、同じ甲南の先生方が協力してくれました。



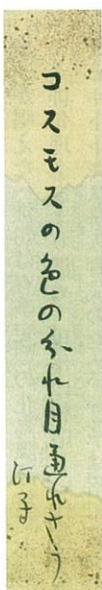
昭和49年4月に始まった特活は、時には教員達もお伴して芭蕉ゆかりの地や比叡山等でも吟行句会を行い、20年以上続いた。写真は平成5年2月、最後の授業風景。



さらに甲南中学保護者会からも俳句指導の依頼が舞い込み、昭和五十一年には甲南俳句会が誕生する等、着実に特活の輪が広がっていきました。この頃の汀子の句には、天衣無縫な個性が光ります。

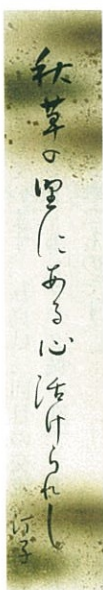
「コスモスの色の分れ目通れさう」

昭和四十九年の詠。



「秋草の野にある心活けられし」

昭和五十年九月の詠。



《幾多の試練を超えて》

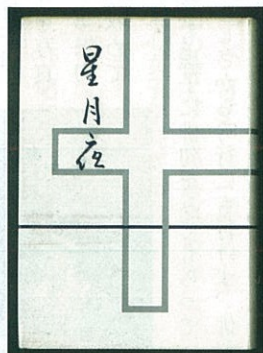
昭和五十二年七月には父年尾が脳血栓で倒れ、汀子は若千四十六歳にして、俳誌「ホトトギス」主宰代行という重責を負うこととなります。

さらに二年後の五十四年九月、夫・順三が原因不明の病で急遽入院し、翌十月には年尾が逝去。連日病院に寝泊まりして献身的な介護を続ける傍ら、年尾の悲願であった「ホトトギス」壹千号を無事発行しました。その喜びも束の間、最愛の夫が四十九歳の若さで旅立ってしまいます。汀子の試練は続きました。

長き夜の苦しみと解き給ひや
い子

右短冊の

句は、昭和五十五年九月九日、順三が一年間の闘病の末亡くなった日の永訣の

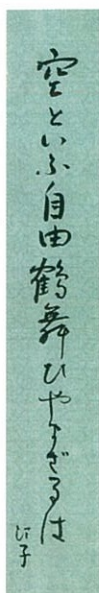


昭和56年9月9日、順三1周忌に出版した句文集。田中竜児氏による装丁がモダンである。

詠。汀子はこの句を「神への存問（挨拶）」と語り、この苦闘の三年間を、一周忌に出版した句文集『星月夜』に凝縮させています。

《鶴の飛翔に心の自由を得て》

順三が亡くなった翌年の五十六年一月十七日、日本一鶴が飛来すると言われる鹿児島県出水を吟行した折、夜明けに一羽、又一羽と舞翔ける鶴の姿を目の当りにし、自身の心の呪縛が少しずつ解き放たれ、まるで自分が鶴の翼に乗って、どこまでも空を舞っているような思いに駆られたといいます。



汀子はこの句を得て、「俳句こそ、人の心を癒し、再び生き抜く力を与えるものである」と確信したのでした。

《若い俳人達を育てる》

句会を通して自他共に学びたいと考えていた汀子は、若い俳人の育成にも尽力しています。奇しくも年尾が亡くなった昭和五十四年十月二十六日、戦後生まれの若手俳人達が集まって汀子に指導を乞うたことから、若手俳人による「野分会」が発足。野分にも倒れぬ強い草木同様に、若い俳人達のたくましい成長を願い、汀子が命名しました。野分会は月例会の他に「夏行」と称する稽古会も行い、会員と汀子との質疑応答は「ホトトギス」に掲載され、『俳句？それはね・・・汀子は語る「一句百言」』にまとめられています。

《まだ見ぬ吟行地を求めて》

昭和五十八年の上海・杭州・蘇州の旅を皮切りに、シルクロード、ドイツ、イギリス、トルコ、フィリピン、韓国と、冒険心溢れる汀子は、異国の地での吟行にも意欲的でした。中でも『自然と語りあうやさしい俳句』が甲南学園の

元学長・鈴木正治氏によって翻訳され、ミュンヘン独立協会会長のクリンゲ氏の仲介によりドイツ語版が昭和六十年に上梓されたのを機に、日独俳句交流の旅が実施され、汀子は四回もド



イツを訪問しています。写真は三回目の交流の旅で会場となったバート・ホンブルク城中庭で、平成二年十月六日に撮影されたものです。

《日本伝統俳句協会を設立》

虚子が唱えた「俳句は有季定型の花鳥諷詠詩である」という俳句理念をより深め、現代に相応しい作品を創造するホトトギス俳人育成のため、汀子は昭和六十二年四月に日本伝統俳句協会を設立し、会長に就任しました。機関誌「花鳥諷詠」にて活動を紹介しています。

《テレビでもお馴染みに》

平成四年から二十年近く続いた「俳句王国」に始まり、平成六年からは「NHK俳壇」、平成十七年からは「NHK俳句」と、六、七十代の汀子は、精力的にテレビやラジオに出演しています。

中でも「朝日俳壇選者の集い」の公開録画放送では、無季自由律俳句を容認する金子兜太氏との丁々発止と火花を散らす論戦が、番組の名物となりました。



平成8年「俳句王国」のゲストは、作家・評論家で句歴も長い塩田丸男氏。

《ポランテア活動、教育活動にも参加》

日々多忙ではありましたが、汀子は芦屋市教育委員を平成四年から十二年間務め、平成五年からは地球ポランテア協会の会長に就任して、フィリピン援助を二十年以上続けています。こういったポランテア精神は、カトリック精神に通じるところが大きく、平成二十二年二月には、フィリピンアロヨ大統領より感謝状を授与されました。



花の歳時記

虚子記念文学館に咲く

木の芽・芽立ち

俳句が彩る虚子記念文学館中庭の樹上には、根元の太さが3mを超えるクスノキがある。クスノキは「兵庫県の木」である。

クスノキ目クスノキ科の常緑広葉樹で、大高木。大きなものは高さ30m以上樹齢約800年という巨樹になる個体もある。葉や木の各部にほのかに甘い芳香があり、樟腦の材料になる。葉の寿命は一年で、春、写真のような新しい葉が出る時に古い葉が一斉に落葉する。

芽ぐむなる大樹の幹に耳を寄せ

虚子（大正十五年）



令和4年3月撮影

第十七回国際俳句シンポジウム 第十五回虚子生誕記念俳句祭開催

令和四年二月十九日（土）、公益社団法人日本伝統俳句協会主催の第十七回国際俳句シンポジウムが、虚子記念文学館多目的ホールにて開催されました。新型コロナウイルス流行の影響を鑑み、初の試みとして、オンラインを利用したシンポジウムを実施しました。各パネリストはオンラインでの参加、会場からはコーディネーターがオンラインで参加し、聴衆は会場スクリーンにて、討論を聴講し、質疑応答等に参加しました。



翌二十日（日）は、第十五回虚子生誕記念俳句祭を開催いたしました。前回に引き続き対面による表彰式は行わず、選者による入選句講評と、記念講演をメイン行事といたしました。

開催にあたり、芦屋市長いとうまゐ氏よりのメッセージを披露し、俳句祭行事へと進みました。俳人でホトトギス同人会長、当館常務理事の安原葉氏による記念講演「『虚子俳話』所感」では、虚子を直接知る人物が少なくなっていく中、卒寿を迎える氏が、虚子著作『虚子俳話』を播き、弟子として、俳人として、僧籍にあ

る者としての見解から、虚子の俳句観や虚子の思い出を軽快かつ穏やかな語り口で講演されました。

俳傳のご案内

虚子記念文学館には、虚子をはじめ多くの方々の俳傳が建立されています。

令和四年四月に新たな掲載区画を中庭に増設いたしました。最後の掲載区画となります。思い出の一句を虚子記念文学館に遺してみませんか。



理事会・評議員会報告

公益財団法人虚子記念文学館理事会、評議員会が開催され、次のことが審議、決定されました。

- （令和三年五月）
- 令和二年度決算
- 令和二年度事業報告
- 役員の変更と定数変更（令和四年一月）
- 令和四年度予算
- 令和四年度事業計画

虚子記念文学館館報 第四十一号

令和四年五月一日

編集・発行 虚子記念文学館

〒六五九〇〇七四

兵庫県芦屋市平田町八―一二

電話（〇七九七）二一―一〇三六

FAX（〇七九七）二一―一三〇六

HP 〒157: <http://www.kyoshior.jp/>

e-mail 〒157: kyoshi@as.enal.ne.jp

◆令和4(2022)年度 虚子記念文学館休館日カレンダー◆

令和4年 4月							5月							6月										
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土				
					1	2	1	2	3	4	5	6	7	5	6	7	8	9	10	11				
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	12	13	14	15	16	17	18				
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	19	20	21	22	23	24	25				
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	26	27	28	29	30						
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31															

7月							8月							9月											
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土					
					1	2	1	2	3	4	5	6	4	5	6	7	8	9	10						
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	11	12	13	14	15	16	17					
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	18	19	20	21	22	23	24					
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	25	26	27	28	29	30						
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31															
31																									

10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1	1	2	3	4	5	4	5	6	7	8	9	10		
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	11	12	13	14	15	16	17
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	18	19	20	21	22	23	24
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	25	26	27	28	29	30	31
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30										
30	31																			

令和5年 1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	1	2	3	4						
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31	26	27	28	26	27	28	29	30	31									

休館日（●印）毎週月曜日、祝日の翌平日、夏期、年末年始 他やむを得ず臨時閉館させていただく場合があります。展示替期間中は、一部ご覧いただけない箇所もございます。